

ふるさと宿南



★ 第133号 ★
発行 令和4年8月
宿南地区自治協議会

TEL・fax:662-3400
Email: kyosyukunami@maia.eonet.ne.jp

宿南に遊び場 usj 誕生！！

この夏休み、「ロングブランコ」と「ターザンロープ」2つの遊具が設置された宿南の新しい遊び場に親子で遊びに来ませんか。宿南には子供が遊ぶ場所がほとんどありません。もっと楽しく遊べる場所があればいいなという子供と大人の思いから、地元の有志を中心に親子の遊び場作りが宗恩寺の裏山に始まりました。

設置され荒れていく里山を有効活用したい、自然の中で親も子も遊び・学ぶ魅力的な場所にしたなど、この活動の方向性が少しずつ見えってきました。さらに、この活動を発信し外部からの移住・定住を促したい、地域を活性化したい、と夢は膨らみます。でも、外部に発信するその前に、地元の子ども達と保護者の皆様にこの遊び場のことを知ってもらいたくて、3日間限定で「usj」と名付けたこの遊び場を開催します。

今度も、新たな遊具の設置、焚火キャンプ、昆虫採集や山菜採り、ツリーハウス作りなど楽しい活動やイベントを計画していますので、ご期待ください。

* usj - unlimited shukunami jppark

3つの約束

- 小学生以下の児童・幼児は、保護者同伴で遊んでください。
- 遊び場は、あくまで自然での利用です。殺虫剤や農薬、鳥や動物への対策は各自で行ってください。
- 山の中には、危険な生き物が潜んでいるからもしれませんので、安全な服装をお願いします。

2022 8/7・21・28 8:30~11:30

お問い合わせ: 079-662-3400 (宿南地区自治協議会) / 運営: 癒しの里山プロジェクト

癒しの里山プロジェクトイベント開催

手作り遊具で楽しめる遊び場が、地元の有志と癒しの里山プロジェクトメンバーにより宗恩寺の裏山に完成しました。「usj」と名付け、夏休み企画として8月7日にオープンしました。さっそく訪れた7組の家族が楽しい時間を過ごしました。

次回は8月21日・28日に開催されます。

※ロングブランコのほかにも



夏休み子ども青谿書院塾

7月21日(木)青谿書院において、学びの里プロジェクトメンバーの皆さんの指導で開催されました。小学生23人参加で、各自夏休みの課題を持参し宿題をしました。

次回は8月19日(金)に開催されます。



空き家対策事業視察受け入れ

7月16日(土)午後西脇市の^{ほうた}芳田自治協議会から空き家対策プロジェクトメンバーと役員8人の視察を受けました。兵庫県の戦略的移住推進事業補助金を活用して空き家対策事業に取り組もうとされています。

宿南自治協では地域の魅力を見つけだすことを第一にして事業計画をしたこと、活動した内容や実績等を資料とともに説明を行いました。



理事変更のお知らせ

理事(体育部部会長)田村吉宏氏の退任に伴い、8月3日開催の体育部部会で宿南宏行氏(川西区)が部会長に選任され、後任理事に就任されましたのでご報告します。



身近で見られる植物 ⑮

ヘクソカズラ〈アカネ科〉

道縁の藪や庭のフェンス、庭木などにもよく巻き付いて見られるつる性の植物です。手でちぎりったり、もんだりすると、独特な匂いがします。その匂いが臭いことからヘクソカズラ【屁糞葛】という名前が付きましました。他にも匂いから命名された植物があります。さて、何でしょう？機会があれば、また紹介しますね。



手ぶくろアートイベント開催

8月7日（日）夏休み企画として宿南ふれあい倶楽部交流広場で、手ぶくろアートイベントが開催され22人の参加がありました。

軍手に思い思いの色を塗って作品を作りました。この作品は、11月に養父市 YB ファブで開催される野外アート展に展示されます。ぜひ見に行ってくださいね。



お知らせ

9月 4日（日） 養父市一斉避難訓練

9月18日（日） 午前 宿南小学校運動会

午後 宿南地区総合運動会 ※

※コロナ感染状況によっては中止の場合もあります



草庵先生紹介

日記 42



青谿書院では女性の学ぶ姿も。男性の塾生とは少し離れたところで草庵（右奥）から指導を受けている。

宮崎和夫さん作

池田草庵の生きた幕末から明治、この時代は男性はもちろん女性の中にも学ぼうとする機運は広がりつつあった。草庵とほぼ同時代に広瀬淡窓が開いた漢学塾の咸宜園（現・大分県日田市）では女性の塾生もいた。

草庵の門人帳の中には女性の名前は見つからないが、書院にやってくる女性たちはいた。「午後兄嫁と近隣の女性数人来る。夜になって帰る」（嘉永元〈1848〉年4月2日）「今日は女性十数人招いて茶宴をし話をする。女性たちは夜は泊まる」（嘉永6〈53〉年1月5日）「片山と池口家の女たち数人来て、本を読む。深夜になって退去」（安政6〈59〉年11月9日）このように周辺の女性たちが、夜にたびたび書院にやってくる。集まって楽しくお茶を飲むだけでなく、草庵から学びたいとやってくると思われ。草庵は妻の久に「心学道話」の本を読み聞かせたり、長女には習字の手本を書いて教えたりしている。やってくる女性たちにも同じようなことはしていただろう。

また、こんな女性もいた。「八鹿の西村家の小娘が来る。（嘉永5〈52〉年10月5日）」この女性は、10日間書院に泊まっている。1人で泊まっているので幼い子ではない。彼女は翌年の2月にも10日間書院に来ている。その時、彼女が帰った日の日記には、「この日、西村氏の小娘退塾する」と書いている。「退塾」というのは、草庵の日記では塾生だけに使っている言葉だ。草庵は彼女を塾生の一人として接していたのではないか。10日間前後滞在するのは、妻の久の実家の「國屋嬢」という女性が来たときにもあった。國屋嬢は明治5（72）年1月21日～2月5日と、翌年の明治6年4月1日～19日の2回書院にそれぞれ滞在している。繰り返すが、これらの女性たちの名前は門人帳にはない。しかし、草庵から教えを学ぼうとしたり、短期間だけの入塾であったりしたのではないか。

池田草庵先生に学ぶ会